

グローバルキャンパスライフ

発表力を付ける

2013年4月15日

グローバル化

- ボーダレス＝国境なし
- 環境問題、世界平和、貧困、差別などの地球的課題の深刻化
 - 一国家の課題ではなく、人類的課題として取り組む必要
- ネットワークによる情報統合
 - 情報が瞬時に世界中に広がる
- 経済のグローバル化
 - 商取引ルールの一統化、物流の円滑化、関税などの障壁排除、規格統一化など
 - 地球の1カ所の経済破綻が、通貨危機や世界同時不況として波及

日本企業とグローバル人材

- 日本市場縮小⇒海外ビジネス拡大
 - 少子高齢化、デフレ⇒国内マーケットは縮小傾向
 - 新興国：経済成長⇒生活レベルの向上、需要の拡大
- 生産拠点（工場）移転
 - 円高、人件費の高い国内から海外へ移転
 - 現地で、現地にあった商品を開発し生産し、販売
- グローバル化
 - 企業にとっては国際化・グローバル化は不可欠の課題
- 世界中どこでも戦えるたくましい人材

参考ビデオ

- テレビ東京
ワールドビジネスサテライト
– 2013年3月14日放送
- グローバル人材育成

入社式

日産自動車最高執行責任者 志賀俊之

入社式

日産自動車最高執行責任者 志賀 俊之

このコラムを読まれている方の中にも、今日、入社式を迎えられた方も多いと思う。厳しい就職戦線を勝ち抜いて、晴れてこの日を迎えられた方々に心よりお祝いを申し上げる。私も37年前、日産自動車の入社式に出た。言い換えれば、学校卒業後、一つの会社に勤め続けていることになる。日本では珍しいことではないが、外国の友人からは不思議がられる。彼らは、転職することのでやりたい仕事を見つけ、キャリアアップを図るので、一つの会社に留まっているのは向上心が弱いと受け止めるようだ。

もう一つ不思議に思われるのが、この入社式そのものだ。“新卒一括採用”を含め、欧米ではこのような慣習はない。私は日本も通年採用、インターンシップ採用なども

あすへの話題



様化を進めるべきだと考えているが、今回はこれが本題ではない。入社式の日に因んで、多くの企業が育成に取り組んでいるグローバル人材について

て書きたい。事業のグローバル化に必要な人材をどう育成するか？ 私もこのテーマで取材を受けることがある。私はグローバル人材を次のように定義している。「自分の考えを持った上で、異なった考え、意見をしっかりと聞き、双方の違いを認識し、同じ目的の為にその違いを縮める議論のできる人」、つまり違いが分かり、違いを認める人である。これができないと異文化でのコミュニケーションができず、現地の人の共感を得られないので成果も上がらない。ではどうすればいいか？ まずは自分の考えをしっかりと持てるよう教養、専門性を高めること、そしてそれを分かりやすく説明する訓練である。えっ、また勉強？ そうです。会社に入ってもひたすら勉強です。頑張れ、新入社員諸君。

● 日経新聞 2013年4月1日 夕刊

私はグローバル人材を次のように定義している。

- 違いが分かり、違いを認める人である。
 - 自分の考えを持った上で、異なった考え、意見をしっかりと聞き、
双方の違いを認識し、
同じ目的の為にその違いを縮める議論のできる人
 - これができないと異文化でのコミュニケーションができず、現地の人との共感を得られないので成果も上がらない。
- ではどうすればいいか？
 - まずは自分の考えをしっかりと持てるよう教養、専門性を高めること、
 - そしてそれを分かりやすく説明する訓練である。

総長メッセージ

「総合的な教育改革」の重要な段階を迎えて

1月15日付けでウ

重要な段階を迎えて』をご紹介します。

教育

いま

在り方に

ています。

部教育のより良い在

が継続され、着実に成果をあげて

かつて駒場で、そして本郷で学生時代を過ぎた私にも、今昔の感があります。それと同時に、改善の必要性を意識されながら、これまでかなり長い期間にわたって積み残されてきた重要な課題も、とりわけ大学全体の教育システムにかかわるものについては少なくありません。さらにまた、近年においては、グローバル化への対応をはじめとして、時代の急速な変化に応じて、教育システムや授業方法の再考を否応なく迫られる場面も、少なからず生じてきています。

よりグローバルに
よりタフに

質であるはずで、その意味で、いま取り組んでいる教育改革の成否をめぐることは、「大学の自治」の真価が問われることになるものと、私は覚悟しています。

なぜ、「よりグローバルに、よりタフに」か

東京大学と「大学の自治」を踏まえながら、いま取り組みを行っている教育改革の基本的な理念は、私が総長就任当初から入学式式辞や「東京大学



総長

濱田 純一

学内広報 No. 1445

グローバルであること

- その本質は、
 - 自分とは異なる生活やものの考え方、価値観などとのぶつかり合い、
 - そうした異質なものを、多様なものを、自分の知力、行動力、想像力の源泉として取り込んでいくこと
- そのような力は、
 - 今まで経験したことがないような課題に対して
 - 柔軟に考え創造的な工夫をして取り組んでいくことのできる
 - 知的な総合力として発揮される

タフであること

- いかなる状況の中でも 主体的に考え能動的に行動し、
- そうした姿勢を持続できる精神的なたくましさ
- こうしたタフさは、困難な課題に対して、多くの人々とやり取りのできる力の源

これからの時代

- ただ「学業成績がよい」というだけでは社会的な役割を十全に果たすことができない
- 東大卒という肩書きのみでは十分な評価を受けない
- 国際社会で、世界の優秀な人々と能力を競い合い協調していくことを求められる
- 「よりグローバルに、よりタフに」育つことが、知的な力を、社会で十分に発揮するために必要

今年度の課題

- 課題 グローバルキャンパスライフ
 - － 講義以外の観点で、学生が将来にグローバル人材となれるためのキャンパスライフの中で取り組みを提案せよ。(ただし、講義以外)
- 提案先：教養学部長
- 提案内容：教養学部の取り組み(イベントや活動、組織など)として認めてもらえる内容

ヒント

- 目的
 - 自分とは異なった価値観をもった人と接する機会を増やす
- 切り口
 - 「自分とは異なった価値観をもった人」とは、だれか？
 - その人と「接する機会」は、どうやって作るか？
 - その人と活発なコミュニケーションするには、どうすればいいか？
 - そのような活動を活性化するにはどうすればいいか？
- もっとも重要なこと 「志」
 - その取り組みが駒場の学生全体や、さらには社会にとって意義のあること

宿題

- 来週
 - グループ毎に提案のアイデア出しをします。
- 準備
 - グローバル人材育成について、インターネットなどを通じて、ニュースや識者の発言などを調べておくこと
 - 自分の提案アイデアをいくつか考えておくこと